

医療情報部

1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	1 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	1 人	
合計	3 人	

2 教員の異動状況

木村 通男（教 授）（H8.10.1.～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	9.19	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	4 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 木村通男, 清水俊郎, 渋谷雅彦, 野口大輔, 小野悟, 他: レセプト情報データベースを用いた調査—紹介時同月内異施設同一検査実施状況, 医療情報学, 35(5), 213-217, 2015. 【医療情報学】 [0]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. Yasunobu Nohara¹, Eiko Kai, Partha Pratim Ghosh, Rafiqul Islam, Ashir Ahmed, Masahiro Kuroda, Sozo Inoue, Tatsuo Hiramatsu, Michio Kimura, Shuji Shimizu, Kuniyoshi Kobayashi, Yukino Baba, Hisashi Kashima, Koji Tsuda, Masashi Sugiyama, Mathieu Blondel, Naonori Ueda, Masaru Kitsuregawa, Naoki Nakashima¹: Health Checkup and Telemedical Intervention Program for Preventive Medicine in Developing Countries: Verification Study, JOURNAL OF MEDICAL INTERNET RESEARCH, 17(1):e2-1-14, 2015. 【医療情報学】 [3.43]
 2. Pratt, N, Chan, EW, Choi, NK, Kimura, M, Kimura, T, Kubota, K, Lai, ECC, Man, KKC, Ooba, N, Park, BJ, Sato, T, Shin, JY, Wong, ICK, Yang, YHK, *Roughead, EE: Prescription sequence symmetry analysis: assessing risk, temporality, and consistency for adverse drug reactions across datasets in five countries, PHARMACOEPIDEMIOLOGY AND DRUG SAFETY, 24(8): 858-864, 2015. DOI: 10.1002/pds.3780 【薬剤疫学】 [2.94]
 3. Roughead, EE, Chan, EW, Choi, NK, Kimura, M, Kimura, T, Kubota, K, Lai, ECC, Man, KKC, Nguyen, TA, Ooba, N, Park, BJ, Sato, T, Shin, JY, Wang, TT, Griffiths, J, Wong, ICK, Yang, YHK, Pratt, NL: Variation in Association Between Thiazolidinediones and Heart Failure Across Ethnic Groups: Retrospective analysis of Large Healthcare Claims Databases in Six Countries, DRUG SAFETY, 38(9): 823-831, 2015. DOI: 10.1007/s40264-015-0318-4 【薬剤疫学】 [2.82]

（2-1）論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 木村通男, 小出大介, 山口光峰, 隈丸拓, 青木事成: 医療情報活用推進に向けた標準化及び品質管理, 医療情報学連合大会, 医療情報学 第 35 回医療情報学連合大会論文集 35(Suppl.)74-75, 2015. 【医療情報学】 [0]
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
1. 野口大輔, 木村通男: Paas を活用した Web スクレイピングおよび短文投稿サイトへの投稿機能の実装, 医療情報学連合大会, 医療情報学 第 35 回医療情報学連合大会論文集 35(Suppl.)290-291, 2015. 【医療情報学】 [0]

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. 渡辺浩, 木村通男, 川口一大, 大江和彦: 医療現場医師による IT システムの利活用実態調査: コモンウェルスファンドの調査に基づく, 医療情報学, 35(4), 167-175, 2015. 【医療情報学】 [0]
 2. 渡辺浩, 木村通男, 川口一大, 大江和彦: アンケート調査を基にした診療情報提供データの利活用実態調査, 医療情報学, 35(4), 177-187, 2015. 【医療情報学】 [0]

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 木村通男: 医療データの時系列検索で副作用情報を検知, 日経ビッグデータ 20 (10) 32, 2015 [0]

インパクトファクターの小計 [0]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 木村通男 (編集): 電子カルテ・医療情報システム部品集 2016, 発行: 地域情報化研究所, 発売: 株式会社インナービジョン (東京都), 2015.
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 27 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 27 年度	
(1) 科学研究費助成事業 (文部科学省、日本学術振興会)	0 件	(0 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	1 件	(385 万円)
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	2 件	(92 万円)
(4) 科学技術振興機構(JST) による研究助成	0 件	(0 万円)
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(6) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(7) 受託研究または共同研究	2 件	(354 万円)
(8) 奨学寄附金	0 件	(0 万円)

(2) 厚生労働科学研究費

木村通男 (代表者)

地域医療基盤開発推進研究事業

電子カルテ情報を用いた証拠性のある臨床研究手法に関する研究 (新規) 385 万円

(3) 日本医療研究開発機構 (AMED) による研究助成

木村通男 (分担者)

医薬品等規制調和・評価研究事業

医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースの利活用方法に関する薬剤疫学研究 (継続) 92 万円 (代表者: 川上純一 (浜松医科大学))

木村通男 (分担者)

医薬品等規制調和・評価研究事業

Mid-NET を用いた医薬品等のベネフィット・リスク評価のための薬剤疫学研究等の実践的な分析手法及び教育に関する研究 (継続) 代表者一括計上 (代表者: 中島直樹 (九州大学))

(7) 受託研究または共同研究

木村通男 標準化規格準拠の電子的医療情報データの利活用に関する研究 300 万円

木村通男 薬剤製造販売後調査における SS-MIX + EDC 連携試行試験に関する調査研究 54 万円

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	2 件	6 件
(2) シンポジウム発表数	2 件	4 件
(3) 学会座長回数	0 件	2 件
(4) 学会開催回数	1 件	0 件
(5) 学会役員等回数	3 件	5 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

1. Kimura M.: Chair, The 5th Annual Translational Bioinformatics Conference (TBC2015) Tokyo, Japan, November 7-9, 2015. 約 200 名

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1. Kimura M.: Japan's available large clinical databases, International Conference on Healthcare and Management 2015, Taoyuan, Taiwan, June 23, 2015. (招待講演)
2. Kimura M.: Japan's available large clinical databases-Reimbursement claim data, Specialist qualification registry and HL7 based standardized storage, TBC2015, Tokyo, Japan, November 7, 2015 (基調講演)

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Reinhold Haux, Antoine Geissbuhler, Michio Kimura, Casimir Kulikowski, Anne moen, Licoln A Mora Jr, Hyeoun-Ae Park: Are We Doing the Right Research in Biomedical and Health Informatics and Are We Doing it Right?, Panel Session, MEDINFO15, Sao Paulo, Brazil, August 20, 2015.
2. Kimura M.: The Use of EHRs Support research in Japan, 2015 CDISC International Interchange, Chicago, USA, November 11, 2015.

4) 国際学会・会議等での座長

5) 一般発表

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 木村通男: 地域連携の光と影—各地の患者情報連携はなぜダメなのか?, 静岡市清水医師会 ME & IT フェア 2015, 6月28日, 2015 静岡市 (特別講演)
2. 木村通男: SS-MIX 標準化ストレージの概要、普及状況、臨床研究への利用について、公益財団法人先端療養振興財団臨床研究情報センター研修会, 9月10日, 2015 神戸市 (招待講演)
3. 木村通男: 30年前の医療コンサルテーションシステムの再評価—何ができて、何ができず、その理由は?, 第1回日本医療情報学会「医用知能情報学研究会」人工知能学会「医用人工知能研究会」(SIG-AIM)合同研究会, 9月29日, 2015. 東京都 (招待講演)
4. 木村通男: 情報化社会で私たちのくらしはどうなるの?~マイナンバー制度と個人情報を考える~, 北海道保険医会, 10月24日, 2015. 札幌市 (招待講演)
5. 木村通男: SS-MIX の仕組みと MID-NET プロジェクトの現状, RWI(Real World Informatics)Forum Japan, 11月30日, 2015. 東京都 (招待講演)
6. 木村通男: 臨床研究の基盤となる電子カルテとその設計・運用, 藤田保健衛生大学第8回「臨床研究セミナー」, 3月8日, 2016. 豊明市(特別講演)

3) シンポジウム発表

1. 木村通男: 糖尿病ミニマムセットの電子カルテ上での利用, 日本医療情報学会との合同シンポジウム, 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月22日, 2015. 下関市
2. 木村通男: 羅針盤 (研究) 医療情報学的課題と医療情報学会としての役割 日本の医療情報研究の世界での位置づけ, 第19回日本医療情報学会春季学術大会 シンポジウム 2015 in 仙台, 6月12日, 2015. 仙台市
3. 木村通男: 医療情報電子化を基盤とした Retrospective Study から Prospective Study へのトランスレーション, 第36回日本臨床薬理学会 シンポジウム 日本医薬品情報学会共催シンポジウム, 12月11日, 2015. 東京都
4. 木村通男: 地域医療情報連携の実情, 第10回日本医療情報学会中部支部会学術集会, 1月23日, 2016. 金沢市

4) 座長をした学会名

木村通男: 第 35 回日本医療情報学連合大会 (第 16 回日本医療情報学会学術大会), 11 月 3 日, 2015.
宜野湾市

木村通男: 第 10 回日本医療情報学会中部支部会学術集会, 1 月 23 日, 2016. 金沢市

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

Kimura M.: Fellow, American Medical Informatics Association American College of Medical Informatics

Kimura M.: Vice President, International Association for Medical Informatics

Kimura M.: Fellowship, Health Level Seven International

木村通男 日本医療情報学会中部支部会 会長

木村通男 日本医学放射線学会 電子情報委員会委員

木村通男 日本放射線技術学会 学術委員会医療被ばく関連情報小委員会委員

木村通男 日本 IHE 協会 副理事長、運営委員会委員, 国際委員会委員長

木村通男 日本 HL7 協会 会長

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0 件	5 件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

(2) 外国の学術雑誌の編集

Kimura M.: Journal of American Medical Informatics Association, BMJ Publishing Group, England, Editorial Board, PubMed/MEDLINE 登録あり, インパクトファクター: 3.93

Kimura M.: Methods of Information in Medicine, Schattauer, Germany, Editorial Board, PubMed/MEDLINE 登録あり, インパクトファクター: 1.08

Kimura M.: International Journal of medical Informatics, Elsevier, Ireland, Editorial Board, PubMed/MEDLINE 登録あり, インパクトファクター: 2.72

Kimura M.: Journal of Biomedical Informatics, Academic Press Inc. Elsevier Science, USA, Editorial Board, PubMed/MEDLINE 登録あり, インパクトファクター: 2.05

Kimura M.: Healthcare Informatics Research, The Korean Society of Medical Informatics, Korea, Editorial Board, PubMed/MEDLINE 登録あり

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

5 回: Methods of Information in Medicine (ドイツ)

2 回: International Journal of Medical Informatics (アイルランド)

5 回: Journal of American Medical Informatics Association (アメリカ合衆国)

2 回: Computer Methods and Programs in Biomedicine (アイルランド)

1 回: IEEE Transaction on Services Computing (アメリカ合衆国)

9 共同研究の実施状況

	平成 27 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 27 年度
産学共同研究	2 件

11 受 賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）の電子情報等の安全対策への活用に関する検討会への専門委員としての参画・指導。昨年度に続き、既に7年目となるが、専門的見解を提示した。
（木村通男）
2. 厚生労働省医薬食品局の医療情報データベース基盤整備事業への参画と指導
本院が上記事業の全国 10 医療機関に選定され、いよいよ、来年度には試行運用が開始される。
（木村通男）

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 電子カルテ上にスタンプのように臨床項目、あるいはケースカードを「押し」、その項目のうち検査結果などは、電子カルテから自動でインポートし、必要な項目は、入力、埋まったスタンプは、電子カルテの内容として保存され、一方でスタンプ内容は、EXCEL ファイルとして出力するシステムを開発した。ダビンチ登録、臨床研究などでの利用が開始された。（木村通男）

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 当部が中心となって開発し、静岡県版電子カルテシステム事業を経て、厚生労働省電子的診療情報交換推進事業（SS-MIX）成果物として採用された、SS-MIX 標準化ストレージは、全国 518 医療機関で稼働している（平成 27 年 3 月現在）。

15 新聞、雑誌等による報道